

沿革

当センターの前身である財団法人静岡健康管理センターは静岡新聞社・静岡放送が母体となり、1971年8月1日に設立された静岡県民のための人間ドック（総合健診）専門施設です。その誕生には、静岡新聞社・静岡放送の社主であった大石光之助が戦後米国ホノルルで新聞経営の研究に当たっていた当時、米国で胎動し始めた「治療中心の医療から予防重視への新しい医療体系」に着目、この潮流がわが国の医療界への到来必至と予測したことに始まります。二代目大石益光静岡放送社長は地域のマスメディアとして、健康づくりによる静岡県民への社会還元事業を考えておりました。また、自らも臨床医であったことから、この「疾病予防を重視した医療センター設立」の提案を前向きに受け止め、新事業として引き継ぎました。「良質の医学検査データによる終生の健康管理」をモットーに、多くの医療関係者のアドバイスを受け、東京、名古屋に次ぎ全国4番目の総合健診専門施設として、財団法人静岡健康管理センターが誕生しました。

その後50年以上にわたり、地域の皆様の総合健診センターとして、「県民の健康と福祉に寄与する」ことを目的に取り組んで参りました。開設当初2千人余りだった人間ドックの年間受診者数は、1992年には1万人を超え、人間ドックや健診、がん検診等で当センターを受診される方は現在では3万2000人を超えるまでになりました。

開設当初、常勤医師は1名でしたが2023年度現在では5名となり、臨床経験豊かな医師による内科診察と結果説明・結果報告を行っています。

生活習慣病の予防健診及びがん検診を実施し、地域全体の健康増進に貢献する事業の公益性が認められ、2011年11月1日に『公益財団法人SBS静岡健康増進センター』と施設名を変更しました。さらなる地域支援の施設として、健康講座・講演会など定期的に開催し、県民への啓蒙活動を行っています。

2013年10月に新館が完成し、2014年1月から健診業務の効率化を図るため新システムを導入しました。

これからの人間ドック及び健康診断は超高齢社会（人生100年時代）に視点を置いた先進的なスタイルに変化していく必要があると考え、疾患発症の予測・予防を目指し生活習慣の改善のみならず運動や食事・栄養に関する指導もこれまで以上に積極的に推進して取り組んでいきます。

コロナ禍におきましては受診環境の確保に努め、厚生労働省の見解に則し健診実施機関として適切な感染症対策を行いコロナ禍を乗り切ることができました。今後も、安心・安全な健康診断実施を基本に10年後20年後を見据えた健康支援を展開してまいりたいと考えます。